

見えない借金と、
見えるリスクを知る。

信用取引と保証金の本質。

投資の世界における「信用」の構造。
それはレバレッジという魅惑の力であり、
同時にあなたの「在り方」を問う鏡である。

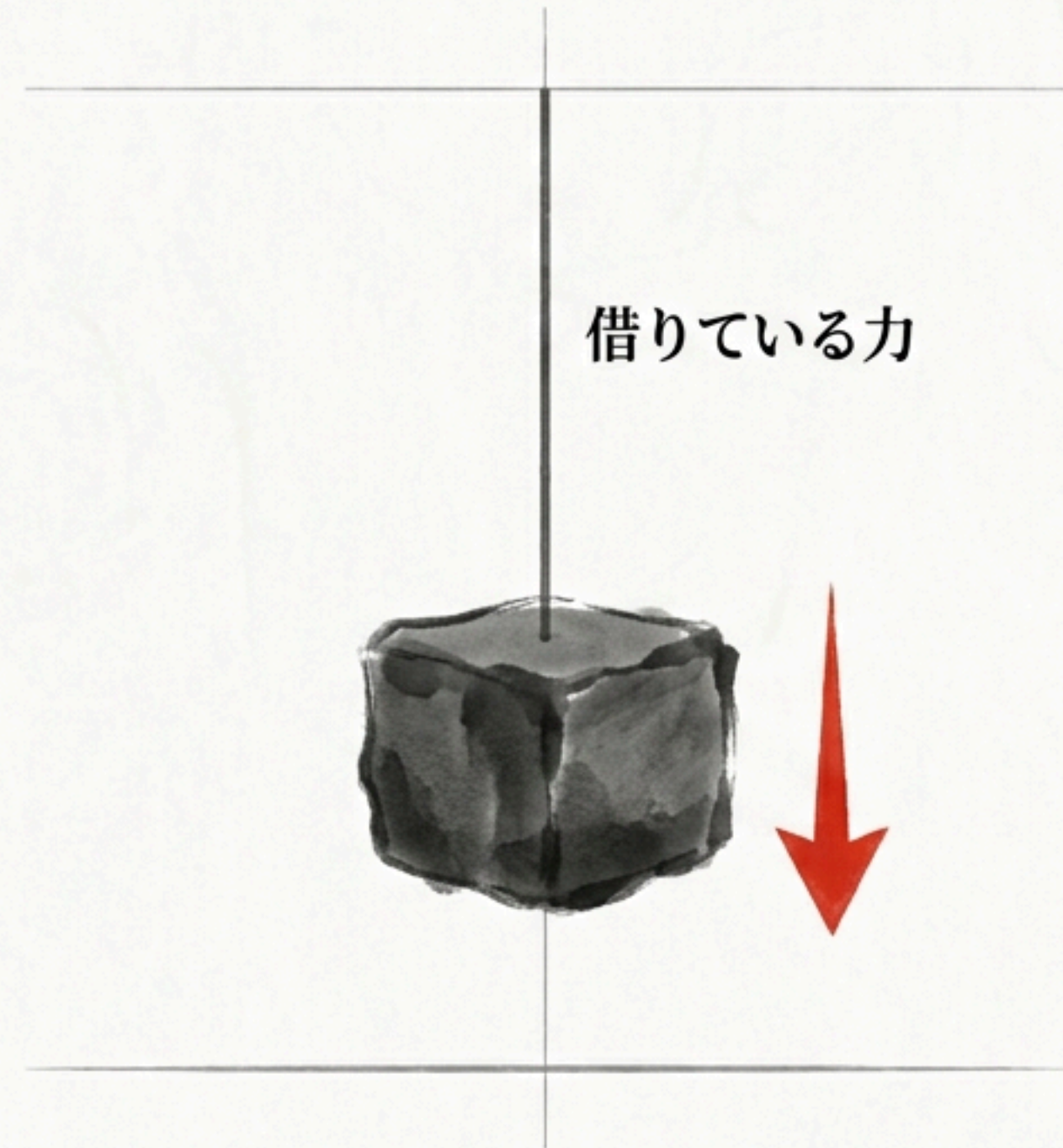
TAOISM - 精神と金融の融合



レバレッジは効率を高め、崩壊を加速させる。

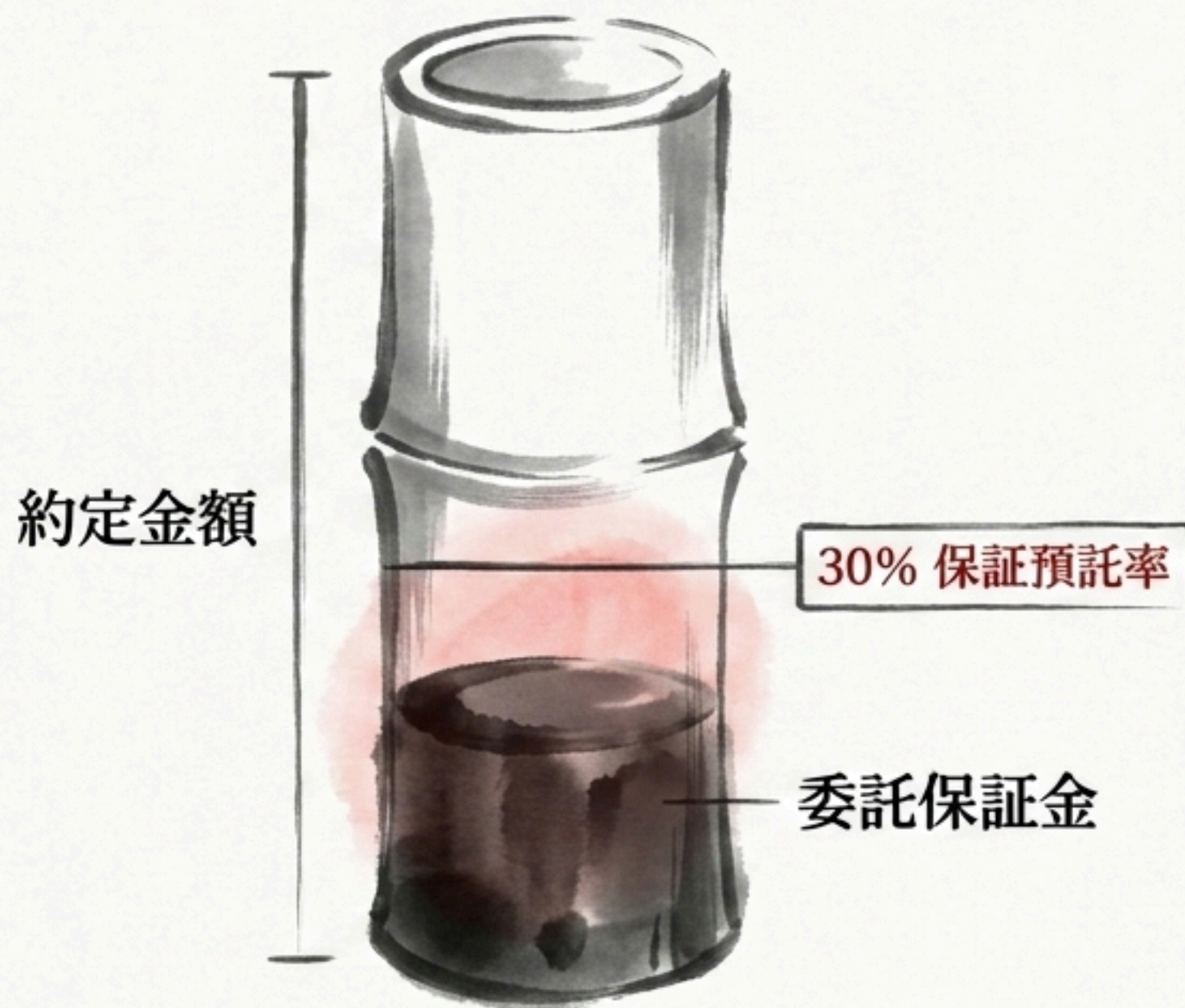
信用取引とは、見えない借金を抱えながら戦う構造である。

信用取引とは、自分のお金だけで行うのではなく、証券会社から資金や株式を借りて取引をすること。少ない資金で大きな取引ができる最大の魅力。しかし、借りている以上「必ず返す責任」がある。この前提を軽視した瞬間、投資は投機に変わる。



「保証預託率」という構造の基盤。

$$\text{【保証預託率】} = (\text{委託保証金} \div \text{約定金額}) \times 100$$



どれだけの担保で、どれだけの取引をしているか。
あなたが借りる代わりに、自分の資産を預ける。
この比率が、あなたの陣地の防御力を決める。

追証への連鎖：防衛線が突破される時。

含み損が増える

担保価値が下がる

保証預託率が低下する

【一定ラインの崩壊】

追証発生（追加資金の要求）

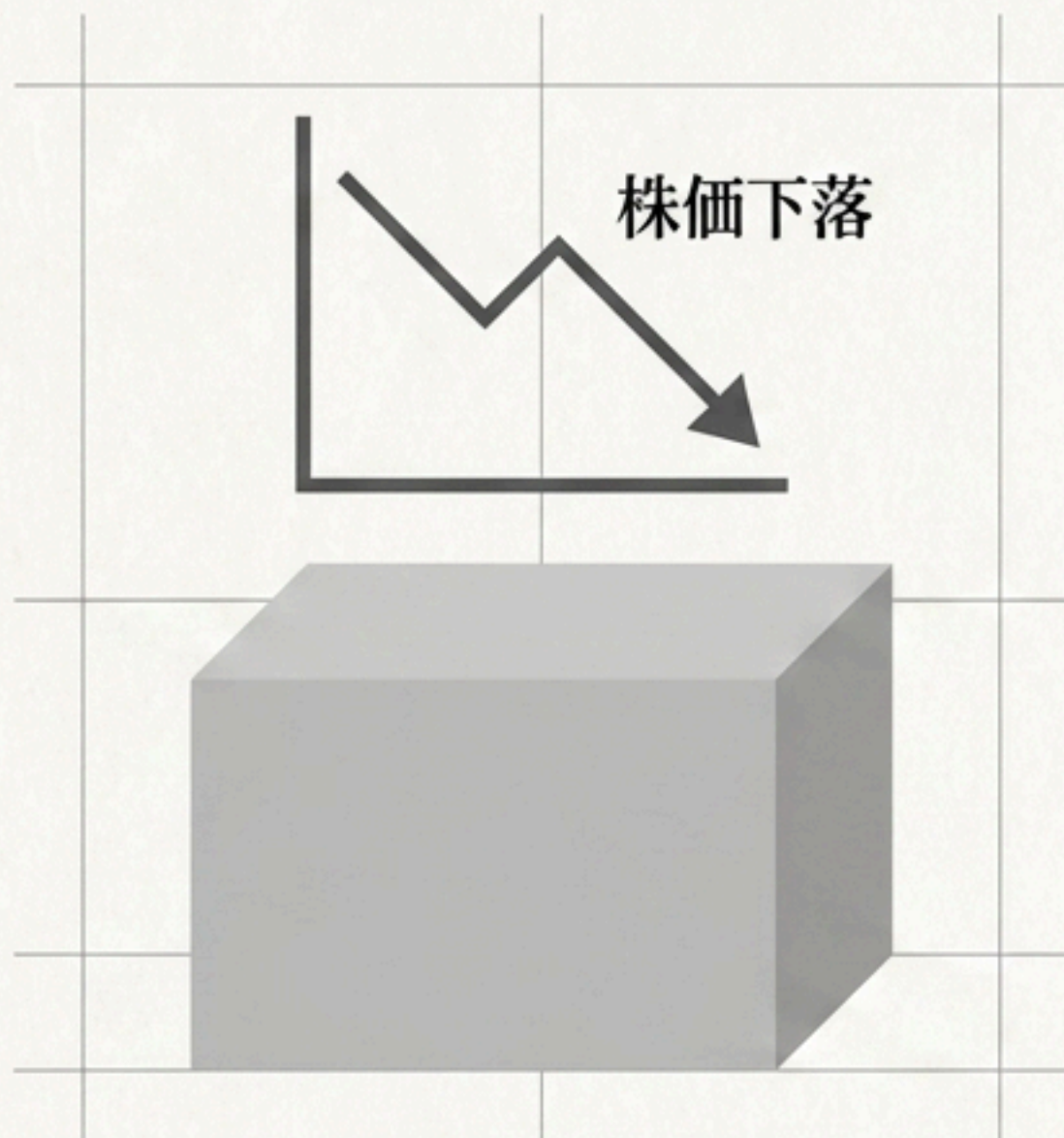
一定のラインを割ると、追加で資金を入れなければならない。これが信用取引における最大の物理的リスクである。

「制御できない損」という最悪の結末。

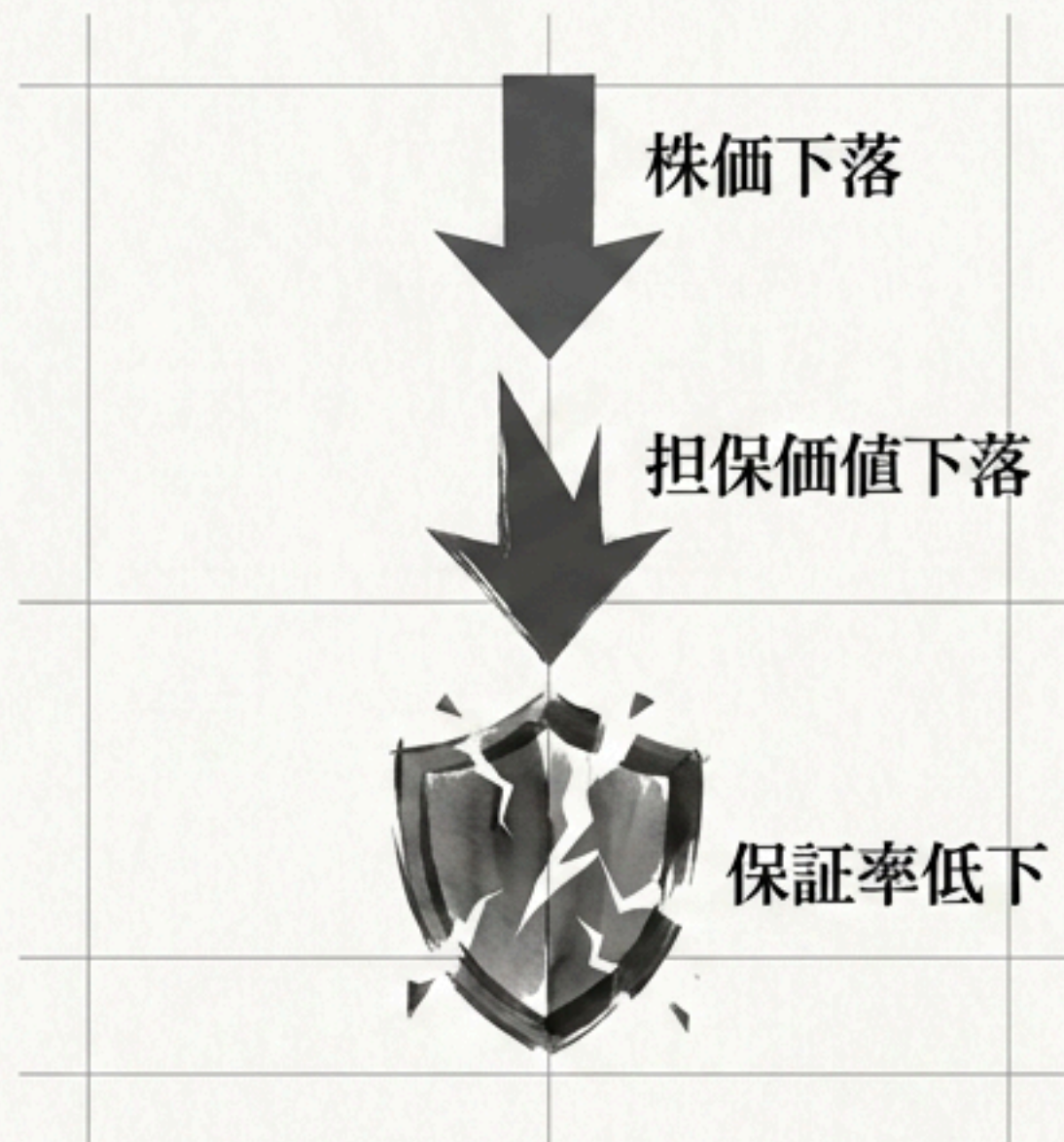
	自分で切る損	強制決済
主体性	コントロール可能	コントロール 不可
タイミング	自分で選べる	最悪 のタイミング
性質	戦略的撤退	致命傷

『 支払えなければ、強制決済。ここに本質があります。』

担保の罠：現金か、株式か。

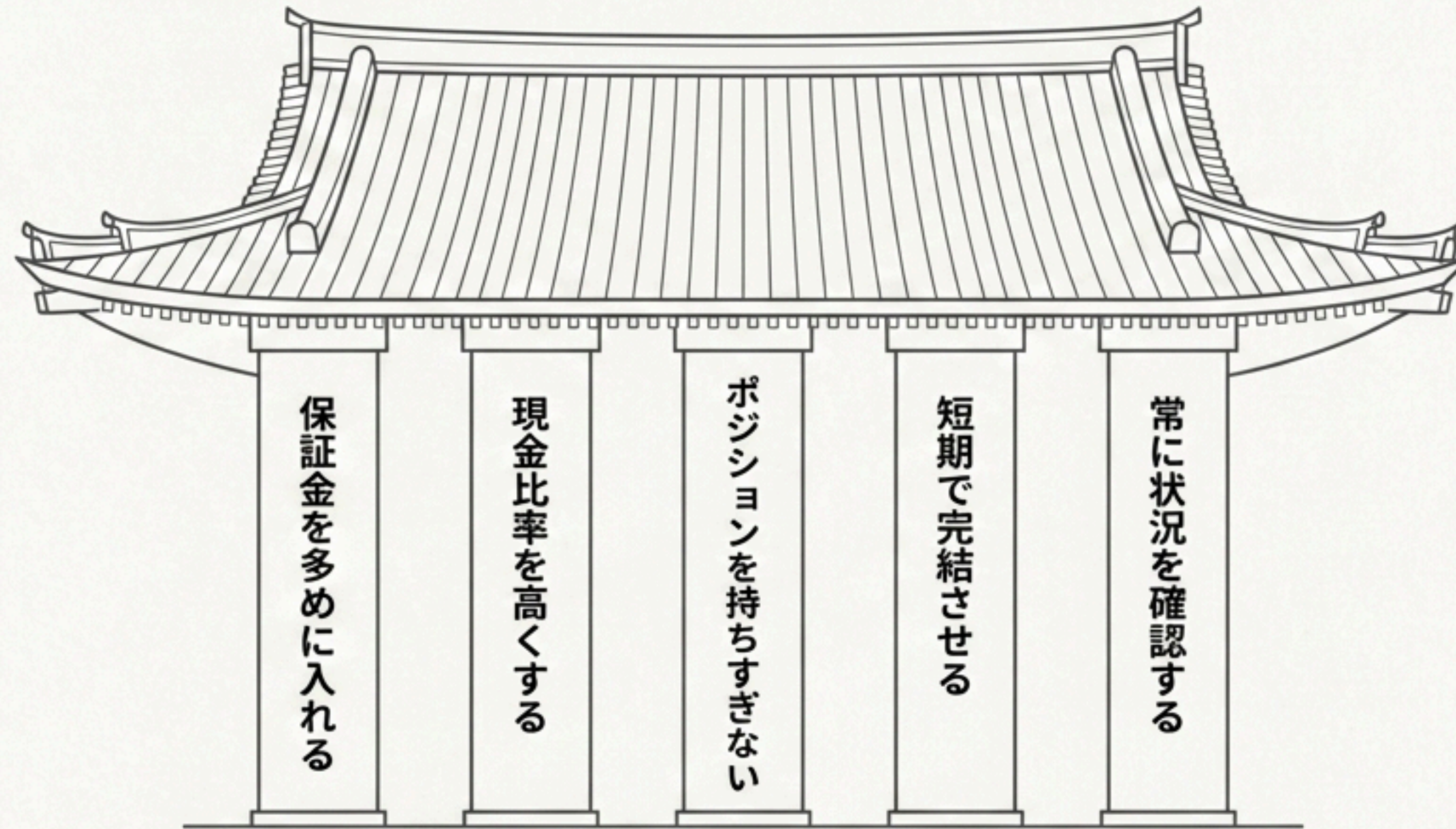


現金は安定しています。
だからこそ、現金比率を高めることが安全性に直結します。



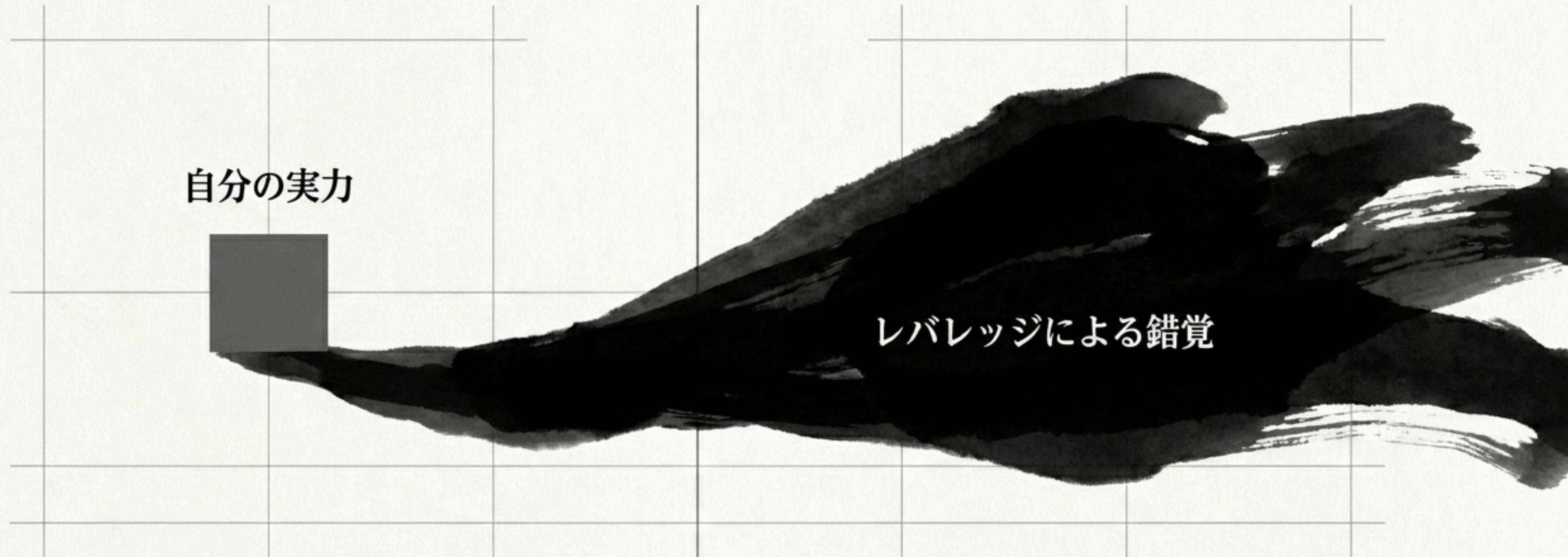
株式を担保にすると、ダブルで削られる。
これが最大の罠です。

実践の基本原則：ギリギリで戦わないこと。



信用取引は「**技術**」ではなく、**規律**です。
逆指値を入れ、**損失を事前に限定し、ルールを守る。**

慢心という心理の罠。



自分は余裕で戦えているだろうか。それとも、ギリギリで戦っていないか。
人は慢心する。
レバレッジが効くと、実力以上に勝てた気になります。

しかしそれは錯覚です。
借りている力で勝っているだけ。
その認識を持てているか。

TAOISMの教え：借りる前に「整えよ」。



TAOISMは整える思想です。

信用とは、信じて借りる力であり、返す責任でもあります。
本質を見抜き、理屈を理解し、徳を磨き、共同体と共に歩む。
信用取引は強力だからこそ、扱う者の在り方が問われます。

あなたは今、
余白を持って
戦えていますか。

その余白が、あなたの未来を守ります。

TAOISM

